

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 54人

② 算数 54人

5 留意事項

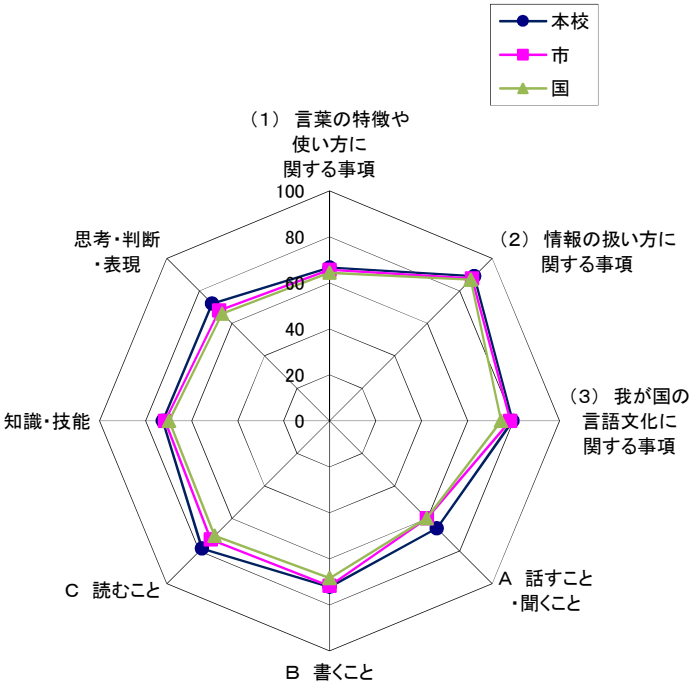
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.7	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	88.9	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.6	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	66.0	59.9	59.8
	B 書くこと	72.2	71.8	68.4
	C 読むこと	78.4	72.9	70.7
観点	知識・技能	72.5	71.5	69.8
	思考・判断・表現	72.2	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

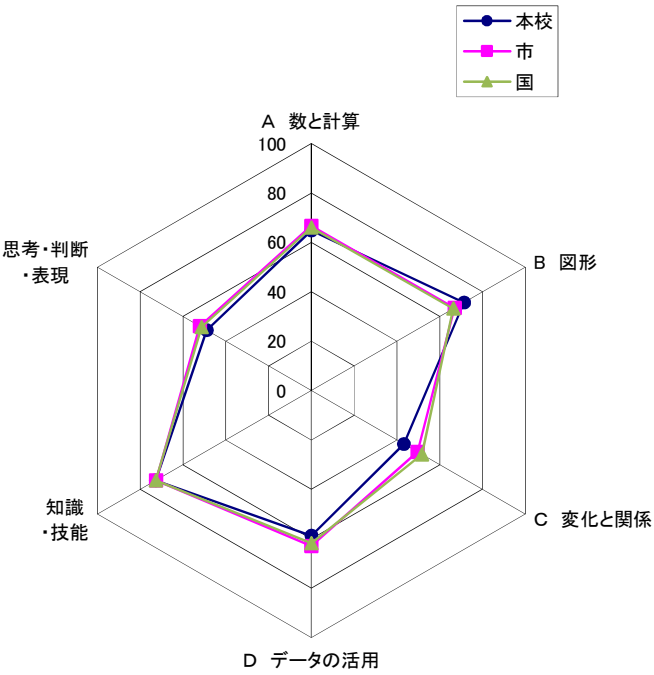
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を2.3ポイント上回った。 ○話し言葉と書き言葉の違いについて、正しく理解している児童が多かった。 ●漢字の書きについては、定着が不十分な漢字があった。 ●主語と述語の関係を捉える問題の正答率が、全国よりも1.2ポイント低かった。	・読み方や字形、同音異字や同訓異字に注意して繰り返し学習を継続する。 ・朝の学習等を活用して漢字の小テストを行うことで、言語に関する知識の定着を図る。 ・日常生活の中で、文や表現に応じた漢字や言葉を適切に使えるよう指導するとともに、主語と述語に気を付けて文や文章を書く機会を設定する。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率が全国平均を2ポイント上回っていた。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを問う問題では、正答率が全国平均を2ポイント上回っていた。	・情報と情報を関連付けて理解する力を養うために、情報の関係性を図化したり、表現の型を用いたりするようにさせる。また、自分の考えや書いた文章を他者と比べたり、話し合ったりする活動を取り入れる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率が全国平均を5ポイント上回っていた。 ○読書の記録を読み直し、気付いたことをまとめることができている児童が多かった。	・日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるよう、読書活動を設定する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率が全国平均を6.2ポイント上回っていた。 ○適切な話題を選択することができる児童が多かった。 ○メモの良さや活用方法について正しく理解している児童が多かった。 ●会話の内容から、説明の工夫に気付くことが難しい児童が多かった。	・伝える相手を意識したり上手にメモを活用したりして、自分の思いや考えを効果的に伝える機会を設定する。 ・各教科や学級活動、委員会活動などの話し合い活動に積極的に参加し、自分の考えを分かりやすく伝えるよう意識させる。
B 書くこと	平均正答率が全国平均を3.8ポイント上回っていた。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりすることができている児童が多かった。 ○自分の考えが伝わるように、メモを基に与えられた条件に沿って、記述することができた児童が多かった。	・感想文や振り返りを書く活動では、書くことの目的や意図を明確にすることで、相手に伝えたいことをはっきりさせるように指導する。 ・字数を意識して文章を書く活動を取り入れていく。 ・自ら進んで書きたいと思うような段落や内容の条件作文等に取り組みせ、条件がある意見文が書けるよう、指導していく。
C 読むこと	平均正答率が全国平均を7.7ポイント上回っていた。 ○物語の人物像や人物相互関係、心情などについて、描写をもとに理解している児童が多かった。 ○物語を読んで、心に残ったことやその理由について記述できている児童が多かった。	・引き続き物語を読んで、心に残ったことやその理由について記述する機会を設定する。 ・多くの読み物資料に触れさせることで、登場人物の心情を捉える力の向上を図る。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.8	66.7	66.0
	B 図形	71.3	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	43.2	49.6	51.7
	D データの活用	58.8	62.9	61.8
観点	知識・技能	72.8	72.6	72.8
	思考・判断・表現	48.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均を1.2ポイント下回った。 ○数量関係を口を用いた式に表す問題の正答率は96.3%と、全国平均を7.8ポイント上回った。 ●文章場面を式に表したり、除数が小数の計算をしたりする技能が身に付いていない児童が多い。	・授業をはじめ、朝の学習や家庭学習等で計算スキル・プリント等を活用し、基本的な計算の仕方についてさらなる定着を図る。 ・日常生活の問題の解決のために必要な数量やその関係を捉える活動を取り入れ、事柄や関係を文で書いたり、図や式に表したりすることで数量の的確な処理の仕方を身に付けさせたい。
B 図形	平均正答率は、全国平均を5.0ポイント上回った。 ○五角柱の面の数を書き、そう考えた理由を底面と側面に着目して記述する問題の正答率は81.5%と、全国平均を9.5ポイント上回った。 ●球の直径と立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題の正答率は、全国平均は上回ったものの、40.7%と低かった。	・図形の定義や性質についての理解を深めるために、復習を徹底する。 ・学習した図形を実感的なものとして捉えられるよう、実際に図形を見せたり作ったり、図形同士を関連させたりするなど、視覚的かつ体験的な活動を多く取り入れていく。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均を8.5ポイント下回った。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率は25.9%と、全国平均を5.1ポイント下回った。	・問題文を丁寧に読み取り、問われている状況を整理し理解することの指導を継続していく。 ・伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、それらの関係をつかんだり、表や式を用いて変化の特徴を捉えたりできるように復習をする。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を3.0ポイント下回った。 ○簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、整理分類する問題の正答率は75.9%と、全国平均を2.6ポイント上回った。 ●示された情報を基に、表から必要な情報を読み取って式に表す問題の正答率は40.7%と、全国平均を8.6ポイント下回った。	・他教科と関連させるなど様々な場面で、表やグラフを読み取る活動を取り入れ、目に触れる機会を多く設ける。 ・グラフや資料の内容を正確に読み取ることができるよう、継続的に丁寧に指導していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○全体的にどの設問に対しても肯定的な回答が多く、物事を前向きに捉えている児童が多い。「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問には、100%の肯定的回答であった。今後も、児童にとって楽しく満足できる学校にしていけるように工夫していきたい。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という設問には、肯定的回答が98.4%であった。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問には、「当てはまる」と答えた児童の割合が、89.9%で全国平均を11.0ポイント上回っていた。授業を通して児童との信頼関係をより築いていけるようにしていきたい。

○「自分にはよいところがあると思いますか」の設問に「当てはまる」と答えた児童の割合が95.1%で全国平均より11.0ポイント上回っている。常に明るく前向きな本学年の児童の傾向を示していると思われる。今後も良いところを認め、励まし伸ばしていきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」や「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の設問に対して「当てはまる」と答えた児童の割合が、全国平均よりもとても高く、友達と協力したり、話し合ったりして問題解決につなげていく力を伸ばしている様子が伺える。

●「新聞を読んでいますか」という設問の、肯定的回答割合が8.2%と低かった。家庭への呼びかけを行っていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
楽しい授業・分かる授業の推進	課題提示、教材、板書、授業の展開を工夫したり、一人一人のよさを伸ばす言葉かけや支援を行ったりして、楽しく分かる授業の展開に努めている。	「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が93.4%、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が86.8%で、どちらの教科においても全国・県の平均より高くなった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カレンダー＆振り返りカード」を活用したり、年間3回「家庭学習強化週間」を実施したりし、家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日どのくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の質問に1時間以上と回答した児童の割合が、83.7%で全国・県の平均を大きく上回った。
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	互いに認め高め合い、進んで学ぶ児童の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学び合おうとする授業を目指している。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が95.1%で、全国・県の平均を上回った。